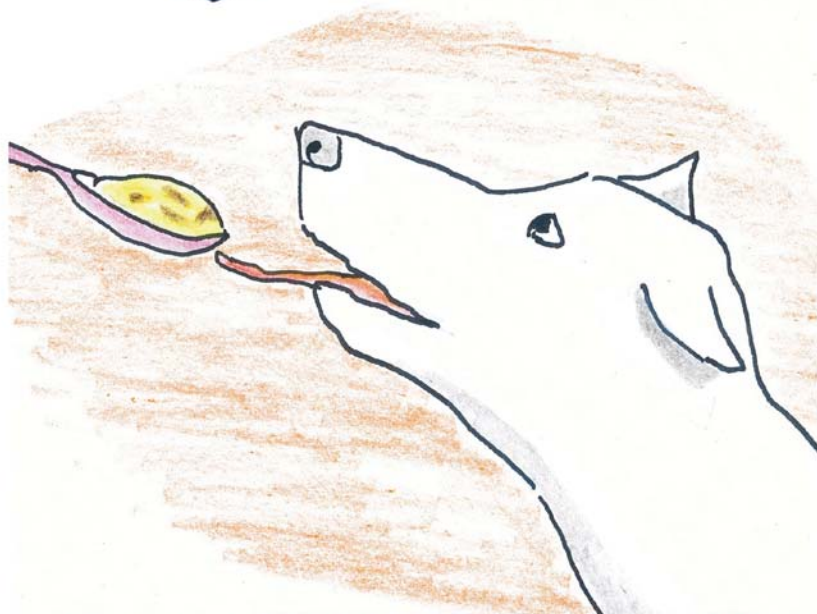
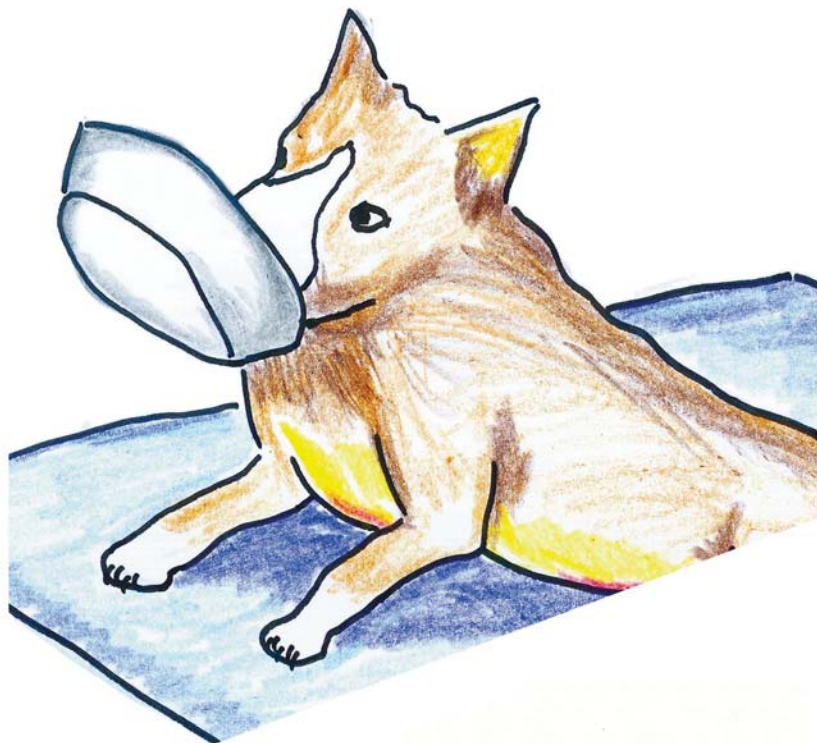


僕が本にしたかった物語 2

天ちゃんが行く また 瞬きのロッキー



絵と文／ 猫田 ワン太郎 🐾

おはなし1

天ちゃんが行く



天ちゃんは難病を抱えています。
だんだん体が
動けなくなってくる病気です。

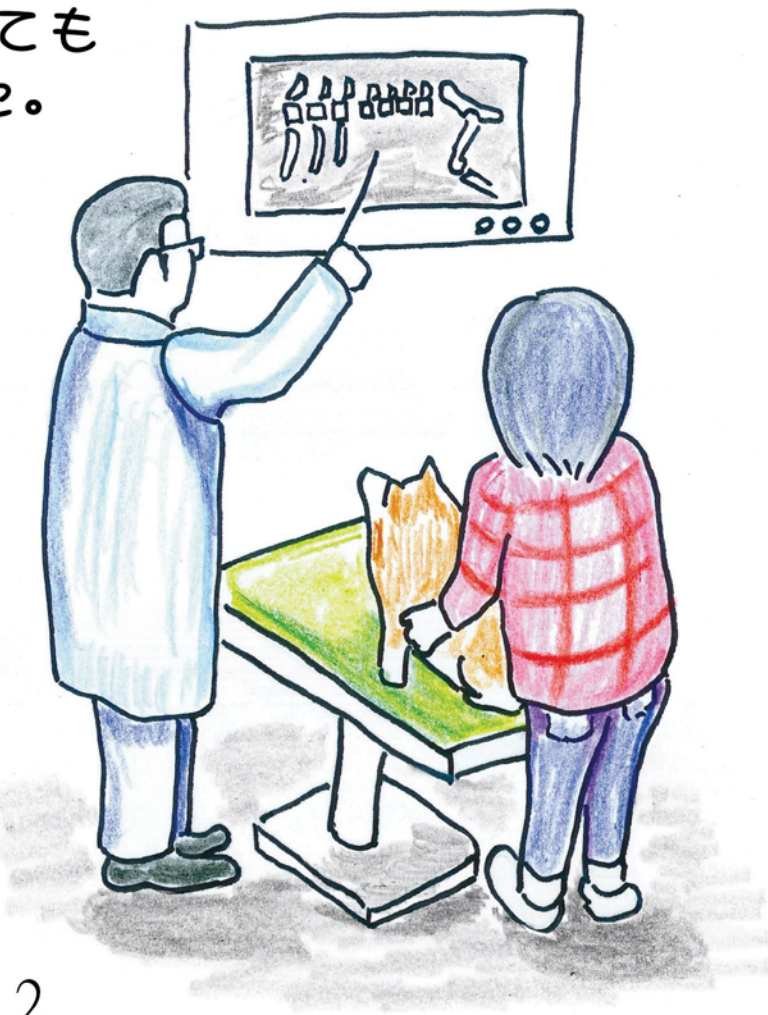
お母さんやお父さんは天ちゃんの病気が
分かった時、途方にくれました。

最初天ちゃんは後ろ足が少しよろけるだけでした。
手術をすれば治ると思っていました。
でも、検査をしたら手術しても
治らない神経の病気でした。

獣医さんから
少しづつ病気が進んで
行くことも聞きました。

家族の皆は考えました。
天ちゃんと少しでも長く
一緒にいれるようにと...

天ちゃんは
かけがえのない家族です。



数カ月たちました。天ちゃんの後ろ足は
徐々に力が入らなくなってきました。

お母さんとお姉ちゃん達は
ベルトで天ちゃんを
つり上げるようにして
散歩につれて行って
くれました。

天ちゃんは散歩が
大好きです。
皆と一緒に散歩が
大好きです。

町内の皆も心配してくれて
声をかけてくれます。

天ちゃんは
いつもと変わらず散歩を楽しみました。



さらに数カ月がたちました。

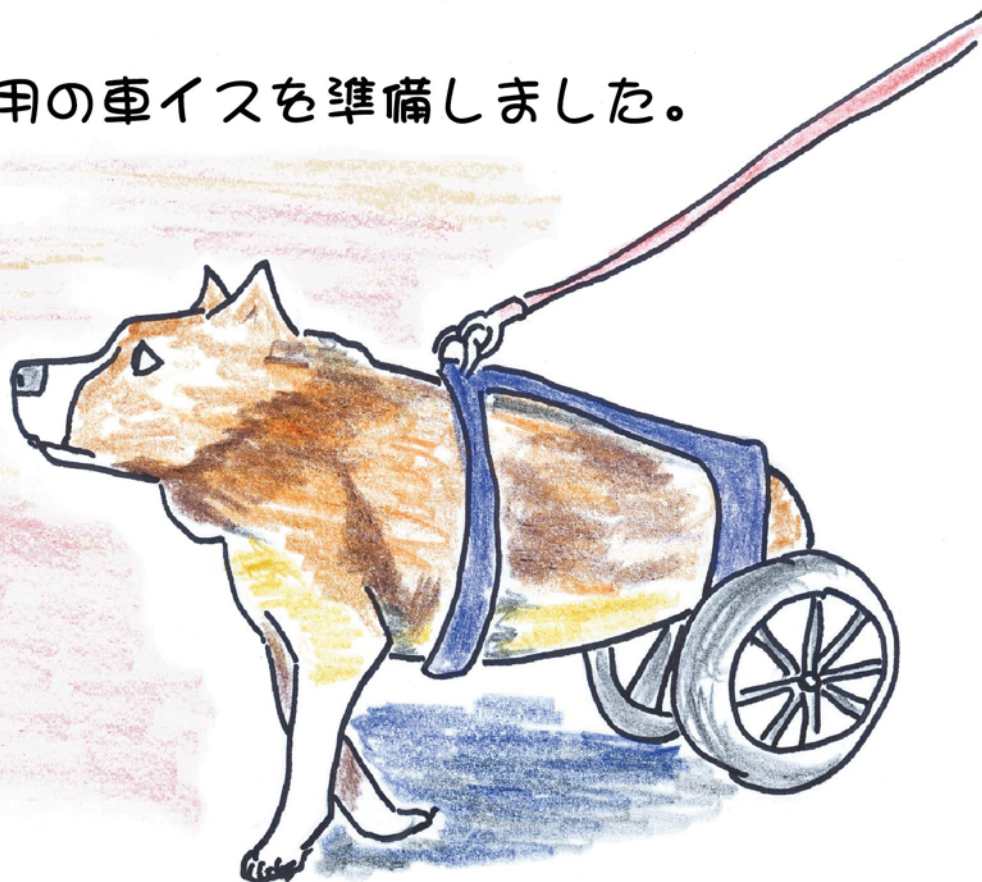
天ちゃんはどうとう

後ろ足に^{ちから}力が入らなくなってしまう

動くことができなくなりました。

でも、前足はじゅうぶんに力が入ります。

家族の皆は、動物用の車イスを準備しました。



天ちゃんは前足だけでも快適に散歩に行けるようになってとても嬉しそうでした。

いつもの散歩コースを得意げに車イスで歩き回っていました。

天ちゃんは
お母さんやお姉ちゃん達との散歩が大好きです。

さらに幸せな時が
静かに流れました。



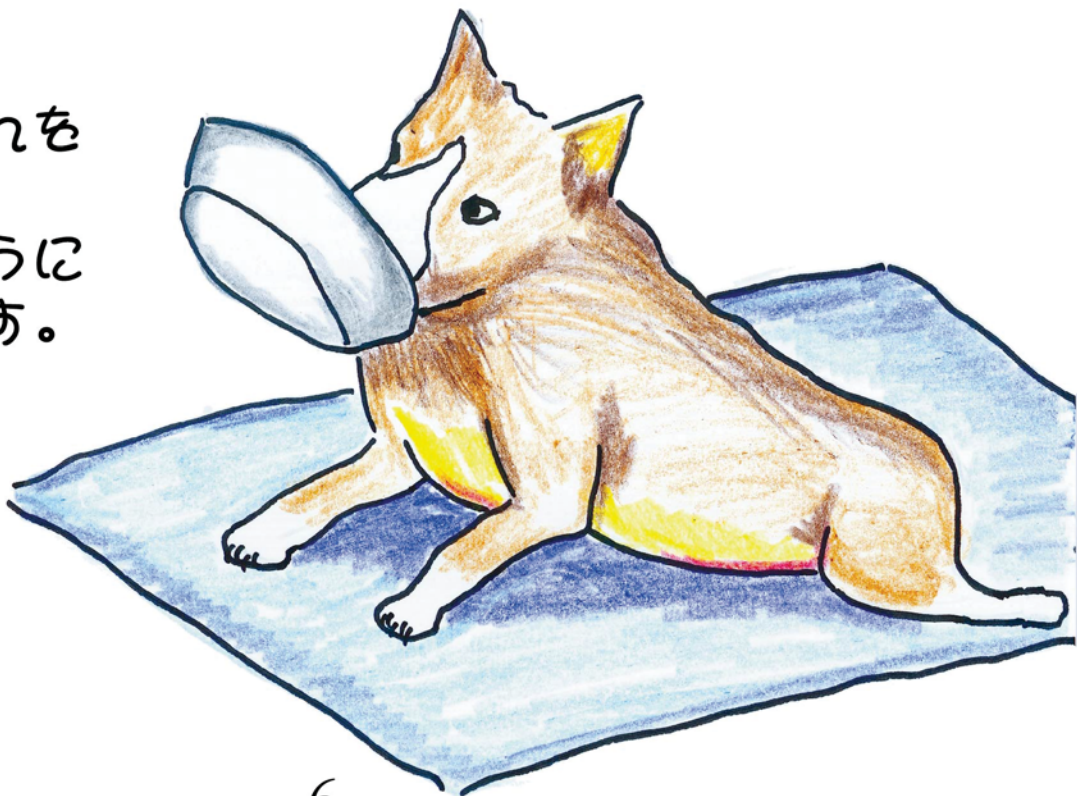
時がたち、とうとう天ちゃんは前足も不自由にない
立ち上がることもうまくできなくなりました。

ご飯だけはなんとか上半身を上げて自分で食べ、
食べ終わると食器のふちをくわえて持ち上げて

“**ご飯全部食べたよ！**”と、

家族の皆に見せるしぐさをします。

そんな天ちゃんを
お母さん達は
とても幸せそうに
ながめています。



天ちゃんは今、
お姉ちゃん達が小さな頃に
使っていたベビーカーに乗って
毎日、お母さんや
お姉ちゃん達につれられて
得意げに散歩をしています。

ベビーカーの天ちゃんも笑顔、
お母さん達も笑顔、
道行く人達も笑顔。

優しい穏やかな
空気に包まれ
幸せの香いを
ふいまいて

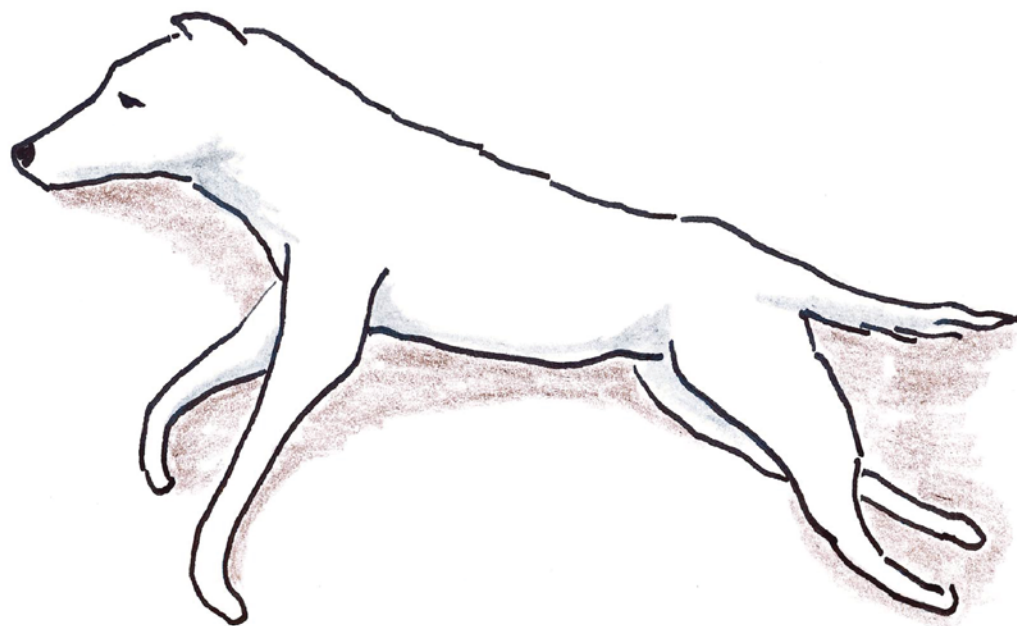
今日も天ちゃんは
散歩を楽しんでいます。



まはた

おはなし2

瞬きのロッキー



ロッキーは頑固爺さん。
もう19歳になったはず…
でも自分では解らない。

ロッキーは自分ではもう動けない。
瞬きしかできない。

でも、瞬きだけで家族と話あ事ができるんだ。
家族皆がロッキーの事を心配してくれる。



お母さんは毎日
一時間以上かけて
ご飯を食べさせてくれる。

お姉ちゃんも膝にのせて休ませてくれる。



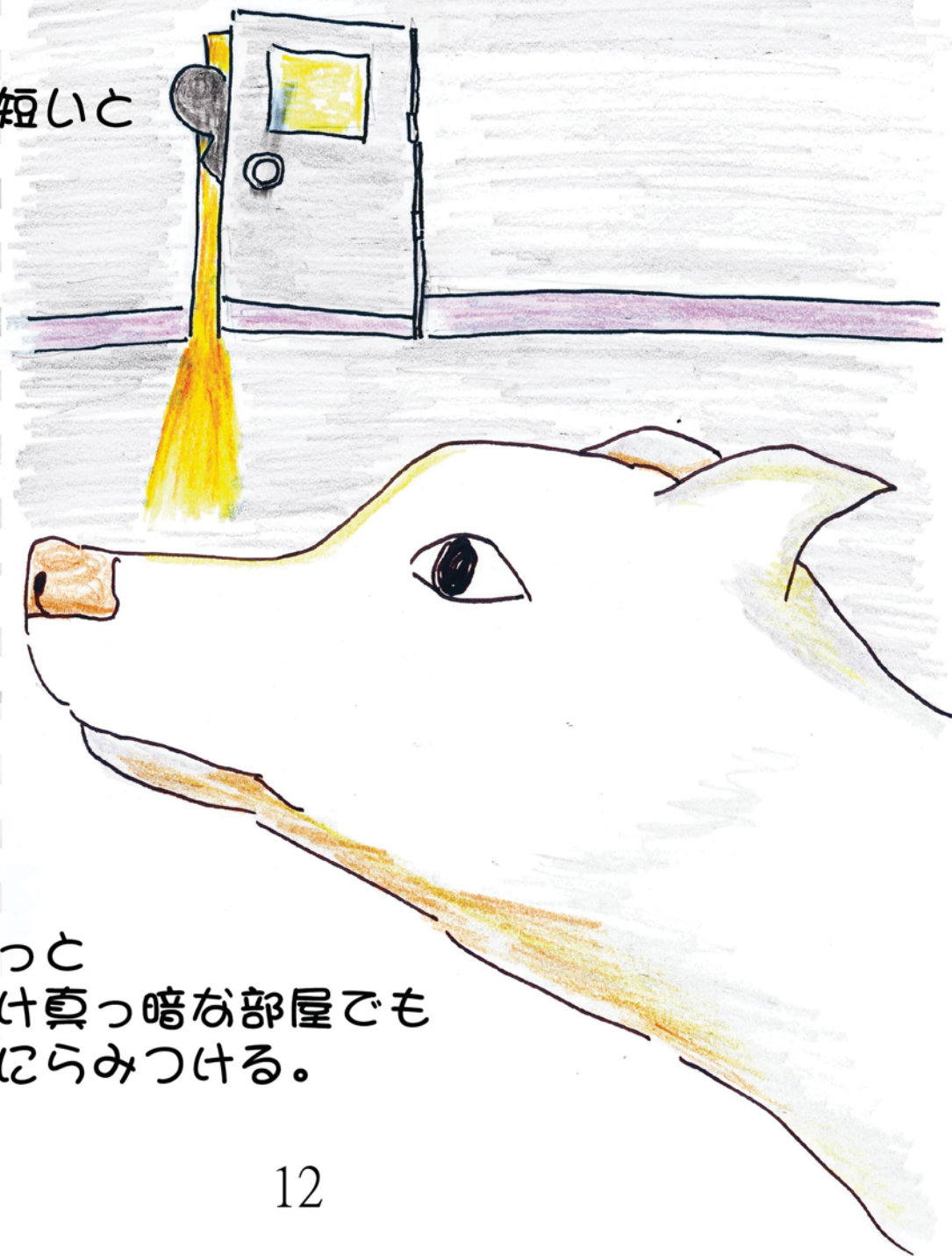
ロッキーの体は
もう硬くなってきている。

顔を動かす事もできない。



でもお兄ちゃんが抱いて
外に出てうまく回ってくれるので
いつもの散歩コースを
ぐるっと見る事ができる。

ロッキーは
散歩の時間が短いと
不満だ。



家に帰っても
寝ないでオーっと
大きく目を開け真っ暗な部屋でも
お兄ちゃんをにらみつける。

もう鳴く事も吠える事もできない。
でも、瞬きだけで家族に合図を送っている。

ロッキーは皆の手を借いて生きている。
でも、家族の皆は誰も迷惑がっていない。
ロッキーが家族の中心だ。 ロッキーが皆の話題だ。

「ロッキーは今日も生きているかなあ」

「おはようロッキー」

「会社に行ってくるよ」

「ただいまロッキー
今帰ったよ」

皆がロッキーに
話しかける。



ロッキーがいるだけで家族は幸せだ。

ロッキーが^{いつく}癒しお心を皆の中に芽生えさせてくれた。

誰もロッキーの世話を強制しない。

大変だけど皆がああんでしてくれる。

ロッキーは皆の心に温かな優しさを届けてくれた。

ロッキーいつもありがとう。



私はこの本を、お母さんが
子供達に本を読んであげる機会になることや
動物を飼ったことがない人が動物を飼う
楽しさを理解するきっかけになったり
親子や夫婦が家庭で自分たちの
動物を飼っていた思い出を話せるきっかけに
なればいいなあと思い作りました。



定価(税込) ごえん(ご縁)

感想文をいただけたら嬉しいです。

E-mail/info@midoriac.com

